

■7月12日

FAA、副操縦士に求める飛行時間要件、大幅に引き上げ

米連邦航空局 (FAA) は10日、米国の旅客機や貨物機の副操縦士に求める飛行経験を、これまでの250時間から1500時間に大幅に引き上げると発表した。機種別の操縦訓練も厳格化し、安全性を高める。尚、米国の航空会社に適用される新たな規制は海外の航空会社には適用されない。

FAAの新規制によると、副操縦士になるための飛行時間の要件を厳格にすることに加え、FAAが新たに認定した操縦訓練を受けることも盛り込んだ。機長になるためにも副操縦士などとして旅客機などで1000時間以上の飛行経験を積んでいる要件を加えた。7月中にも施行する。

(日経)7/11

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1100F_R10C13A7EB1000/?dg=1 (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1100F_R10C13A7EB1000/?dg=1)

沖縄関連路線、航空6社、6月搭乗実績、旅客数前年同月比7.9%増

沖縄関連路線に就航する航空6社は10日までに6月の搭乗実績をまとめた。全体の旅客者数は前年同月比7.9%増の108万9885人。提供座席数は6.4%増の173万7122席だった。

沖縄タイムスによると

l 全日空は4.6%増の49万4667人で、提供座席数は78万6059席。

l 日航は2%減の19万7988人で提供座席数は36万1288席だった。

l 日本トランスオーシャン航空 (JTA) は12.4%増の22万9563人。21～30日まで那覇ー久米島線を減便した琉球エアークommuter (RAC) の補完として、同期間臨時便を就航した。提供座席数は32万7695席だった。

l RACは12.3%増の3万2528人。1日6便の久米島線を期間限定で4便に減らしたが、JTAから移管を受けた与那国線などが補い前年同月を上回った。提供座席数は4万7688席だった。

l スカイマークは29.9%増の10万4943人。提供座席数は17.6%増の15万9300席だった。

l スカイネットアジア航空 (ソラシドエア) は、42.4%増の3万196人。同月1日から就航した神戸線が全体数を引き上げた。提供座席数は5万5092席。

(沖縄タイムス)7/11

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-07-11_51533 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-07-11_51533)

関空、LCC専用ターミナル開業、1年遅れの2016年

(日経によると)

新関西国際空港会社の安藤圭一社長は、格安航空会社 (LCC) 専用となる旅客ターミナルの開業が2016年になるとの見通しを明らかにした。ジェットスター・ジャパンなどの増便時期が不透明なため、15年度中を目指していた当初計画より1年遅れる。今後は旅客の伸びが見込まれる東南アジアの路線誘致に注力する。

安藤社長が日本経済新聞の取材に答えた。新関空会社は昨年10月に供用を始めたLCC専用の第2ターミナルに続き、新しい旅客ターミナルの建設を計画。来年度中に着工し、15年度に供用を始める予定だった。

1年ずれ込むのは、ジェットスターが社内体制の不備で関空の拠点化を無期限に延期したため。日中関係の冷え込みで、中国・春秋航空の就航が見通せなくなったという事情もある。

新関空会社は就航便の見通しや需要予測をもとに、第3ターミナルの具体的な設計案を詰めている。4時間以上飛行する大型機が増えることを見越して駐機スペースを広げるほか、第2ターミナルでは省いた搭乗橋の設置を検討する。「施設内にフードコートのような集客装置も整備したい」という。

政府が東南アジア向け査証 (ビザ) の発給要件緩和を決めたことを受け、「シンガポールやインドネシア、マレーシアを本拠とするLCCへのプロモーションに力を入れる」(安藤社長)。東南アジアを軸に路線誘致に取り組む考えを示した

(日経)7/12

http://www.nikkei.com/article/DGXNASHD11017_R10C13A7LDA000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASHD11017_R10C13A7LDA000/)

エジプト航空、成田線8月末まで運休

エジプト航空は11日までに、14日以降の成田ーカイロ線の直行便運航を8月末まで運休することを決めた。これは、エジプトのクーデター後の情勢悪化を受けたもの。関西ーカイロ線については運航を続ける。

2011年のエジプト革命による政情不安で、エジプト航空は同年2月に日本直行便の運航を停止。昨年4月に成田ーカイロ線、同12月に関西ーカイロ線を再開していた

(産経ニュース)7/11

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130711/mds13071123340007-n1.htm> (->
<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130711/mds13071123340007-n1.htm>)

新関空会社、エアアジア(LCC)へ関空への就航打診

新関西国際空港会社は、アジア最大の格安航空会社(LCC)のエアアジアに対し、関空への拠点開設を打診していることを明らかにした。24時間運用など関空の利点をアピールし、エアアジアの日本再進出を促す。この背景には、ANAが出資するピーチ・アビエーションが拠点空港として活用しているが、合併解消で競合を配慮する必要がなくなったことが背景にある。読売新聞が報じた。

関空は、深夜の発着制限がある成田と異なり、24時間発着できる。首都圏から比べアジアまでの飛行時間が1時間近く短い。関空はLCCを成長戦略の柱に据え、2014年度までに国際線でLCCの比率を現在の17%から25%に高める計画だ。

(読売新聞)7/12

<http://osaka.yomiuri.co.jp/e-news/20130712-OYO1T00255.htm?from=main1> (-> <http://osaka.yomiuri.co.jp/e-news/20130712-OYO1T00255.htm?from=main1>)

韓国、上半期、航空交通量、前年同期比5%増、過去最高

韓国国土交通部は12日、今年上半期(1~6月)の国際旅客・貨物運送など航空交通量が28万5000便で、前年同期比5%増加したと明らかにした。韓流ブームや海外旅行シーズンが追い風となり、上半期ペースでは過去最高となった。Yonhapnewsが報じた。

原油高の影響を受けた2005年や世界的な金融危機が起こった2009年を除いて毎年増加を続け、この10年間は年平均5%以上の増加傾向にある。

国際線交通量は昨年上半期の15万3000便から9.64%増加の16万7000便。また、空港別では、仁川国際空港の交通量は10%増の13万5000便、済州空港は3.88%の増加だった。

(yonhapnews)7/12

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/society/2013/07/11/0800000000AJP20130711002700882.HTML> (->
<http://japanese.yonhapnews.co.kr/society/2013/07/11/0800000000AJP20130711002700882.HTML>)

中国、上半期、航空交通量、旅客輸送数、前年同期比10.4%増、1億7000万人

(China Pressによると)

2013年7月11日、中国民間航空局の李家祥局長は、2013年上半期の民間航空業界状況について説明を行った。

報告によると、中国2013年1月ー6月、中国の民間航空機数は、94機増加し、2035機に達した。

1月ー6月の民間航空旅客飛行数は146万6000機(回)であった。

上半期の旅客輸送数は、2012年同期比10.4%増の1億7000万人(回)。貨物輸送量は、前年同期比3%増の262万5000トンとなっている。

(China Press)7/11

<http://www.chinapress.jp/pd/37324/> (-> <http://www.chinapress.jp/pd/37324/>)

中国—米国路線、販売に影響なし、アジアナの事故後

(serchinaによると)

7日に米サンフランシスコで発生したアジアナ航空機炎上事故による米中航空路線の影響について、中国メディア・中国新聞社は11日、販売減少といった状況は発生しておらず、夏のピーク期を迎えてニーズはかえって旺盛になっていると伝えた。

記事は、国内の大手航空会社の担当者が「夏休みの時期は、米国観光や留学が増えるピーク時期。ニーズの高まりにより、米国路線を増設した」と語るとともに「チケット価格や搭乗率はいずれも悪くない」と説明したことを伝えた。

そのうえで、中国民航大学航空経済研究所の李暁津所長が「航空事故は偶発的イベントであり、常態的なものではない。アジアナ航空は安全記録が良好な航空会社であり、米中路線に大きな影響は生じない」と解説、航空アナリストも「このような偶発事件で消費者の行動が変わることはない」としたことを紹介した。

記事はさらに、4月ごろは約7000元だった北京—ロサンゼルス路線の価格が現在は1万6000元を超え、国内キャリアでも1万円前後、低価格のアジアナ航空でも8200元と高騰していることを併せて伝えた。

(serchina) 7/11

http://news.searchina.net/jp/disp.cgi?y=2013&d=0711&f=national_0711_038.shtml (-> http://news.searchina.net/jp/disp.cgi?y=2013&d=0711&f=national_0711_038.shtml)

復興航空、成田—台北線、9月に新規就航

復興航空(トランスアジア)の林明昇董事長は10日、台湾桃園国際空港と成田国際空港を結ぶ便を9月に就航する計画を明らかにした。同社は台湾と北海道4カ所、大阪、那覇、石垣島を結ぶ便を運航しており、成田は日本の就航地では8カ所目。関東では初めてとなる。NNAが報じた。

11日付工商時報によると、現在は就航に向け準備中で、日台双方で手続きが終わり次第、9月中に運航を開始する。なお、昨年夏から運航している日本便は好調で、昨年末にはエアバスA330—300型機を導入し、輸送能力を約2倍に増やした。

(NNA ASIA) 7/12

<http://news.nna.jp/free/news/20130712tw015A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130712tw015A.html>)

スターフライヤー、貨物コンテナ、全機材でコンテナ化へ

スターフライヤーは9日、北九州—羽田線と福岡—羽田線で、コンテナ輸送を開始したと発表した。航空貨物のコンテナ化により、貨物運送品質の向上や積載作業の効率化を見込む。

同社は2008年8月から福山通運との提携のもと、航空貨物運送事業を行ってきた。現在までに3機がコンテナ搭載に対応しており、今後も機材リプレースや整備時の改修などの機会を捉えて、全機体のコンテナ化を目指していくとしている。

(日刊航空) 7/12

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(スターフライヤー プレスリリース) 7/9

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130709088124.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130709088124.pdf>)

シンガポール航空、次世代機内装備へ大規模な投資、ハイクラスな空の旅を提供

シンガポール航空は9日、「ハイクラスな空の旅への新たな金字塔となる」という、次世代機内装備を発表した。ファースト/ビジネス/エコノミーすべてのクラスで一新された機内装備の初フライトは、9月のシンガポール～ロンドン路線を予定しており、この最新の座席仕様と機内エンターテインメントシステム「クリスワールド」は、新機材の導入に伴い、順次他の路線にも導入されていく。

同社は、約1億5000万米ドルを投入し、ボーイング777-300ERの8機を皮切りに次世代機内装備を導入、今後納入さ

れるエアバスA350にも導入予定となっている。

詳細は以下シンガポールエアライン プレスリリース参照ください。

http://www.singaporeair.com/jsp/cms/ja_JP/promotions/09jul13.jsp (->

http://www.singaporeair.com/jsp/cms/ja_JP/promotions/09jul13.jsp)

(日刊航空)7/11

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(シンガポールエアライン プレスリリース)7/9

http://www.singaporeair.com/jsp/cms/ja_JP/promotions/09jul13.jsp (->

http://www.singaporeair.com/jsp/cms/ja_JP/promotions/09jul13.jsp)

本邦LCC、国内線シェア、3月時点5.6%

(日刊航空によると)

国交省は、国内線旅客数のうち本邦LCCの割合が、2013年3月時点で5.6%を占めているとの分析をまとめた。交通政策審議会航空分科会・基本政策部会の中間とりまとめで、参考資料として報告した。

また、航空会社が国内線で旅客1人を1km運ぶ場合の旅客収入は、2012年度の統計でLCCの平均値が6.7円だったのに対し、LCC以外の航空会社は17円だったと報告した。なお、全社平均では16.7円となり、2011年度の17.5円から低下している。

(日刊航空)7/12

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0712-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0712-03.pdf>)